

太宰府の文化財 vol. 478



岩屋磨崖仏全景(左から1号、2号、3号)
1号塔の高さは154cm。1・3号は宝篋印塔。2号塔は宝塔。



岩屋磨崖仏の三次元画像
このような色情報を抜いた三次元画像をソリッドモデルといい、モノの形を観察する場合に有効な技法です。



1号塔(宝篋印塔)三次元モデル

訂正・お詫び
2024年2月号「太宰府の文化財477刀伊の入寇」の掲載図に誤りがありました。訂正内容はホームページ(ID:39164)をご覧ください。

本市の北側には、四王寺山が鎮座しています。この南側、岩屋地区の中腹に露頭した花崗岩盤から突き出した岩の下部に、磨崖仏と呼ばれる、仏を示す種子(神仏を示す梵字)や宝塔・宝篋印塔などの塔が、数々所にわたって彫られています。

今回とりあげるのは、この磨崖仏石塔の第1号塔です。この塔は、塔身の月輪内に彌(アヒ)・アク・天鼓雷音如来、不空成就

如来、金剛薩埵(金剛界)の種子が刻まれています。一番下にある基礎部に彫られた銘文を見ると、この塔は故人の三十三回忌のために作られたことがわかります。年号はわかりませんが、年号に続く十干十二支の「丁卯」だけ残っています。

『太宰府市史』によると、1号塔は3号塔に比べて新しい時期に彫られており、造塔年代は千支・丁卯から、嘉禄元(1381)に彫られており、塔身に刻まれている仏を示す種子が、三十三

7) 年か文安4(1447)年と推定しています。今回改めて検討したところ、1号塔の特徴が細身、隅飾りが外反、周辺の粗雑な彫り窪めなのに加えて、基礎部の横幅が狭く縦に長いことが、年号に続く十干十二支の「丁卯」だけ残っています。

(1507)年の時期と判断しました。また、石塔塔身に刻まれている仏を示す種子が、三十三回忌の本尊とされるアーラーク・虚空藏菩薩ではな

※ 岩屋磨崖仏は急斜面にあるため、見学は安全に十分留意してください。

岩屋磨崖仏石塔群第1号塔 ～中世後期の宝篋印塔～

時代に広まる三十七回忌では、アク・金剛薩埵が本尊のため、この石塔は三十七回忌が定着する前の過渡期の様相が表れるとも考えられます。

磨崖仏が彫られた中世後期の太宰府は、少弐氏・大内氏・大

友氏などの勢力争いの中で、目まぐるしく主が変わる戦乱の時代でした。石塔銘文には「大姉」とあり、女性を追善供養したものと思われます。戦乱の厳しい時代に聖地・四王寺山に宝篋印塔を作ることができたのはどのような人々だったのか、また供養された女性はどうな人間だったのでしょうか。興味は尽きません。

太宰府市公式SNSのフォローお願いします!



LINE



エックス



Facebook

